

一般社団法人蔵前工業会令和2(2020)年度事業計画

平成21(2009)年に現在の大岡山キャンパスに拠点を構えて以来、蔵前工業会は大学との連携を一層深め、学生への支援を強化し、事業を拡大してきている。

令和2(2020)年度も定款に示されている科学技術の振興、大学への支援、会員相互の親睦の3つの基本方針に沿って活動を展開する。その計画の概要を以下に記す。

(注) 新型コロナウイルス感染防止のために既に一部中止等決定したのものもあり、今後も大幅な変更がありうる。

I. 事業の収支状況について

収入の約60%を占める会費収入については、正会員増を図り、当年度収受分は学生会費も含め、ほぼ前年度予算並みを見込む。

広告料収入は、辞退される企業もあり、前年度実績より30万円減の1150万円を見込む。

一方、収益事業については新型コロナウイルスによるイベント中止などの影響が懸念されること、これまで会場として使用していた百年記念館の一部が使用できないこと等もあり、不透明な部分があるが、2020年度も前年度予算並みの規模とする。

上記を合わせ、収入全体としては前年度予算と同等の約2億4200万円を計上する。

これを有効に費消し、下記に述べる各事業を展開していく予定である。特に会費納入会員を増やすための施策として若年層への働きかけを強化するとともに、引き続き東工大・蔵前ゴールドカード入会や、支部活動の活性化、卒業祝賀会、卒業周年同期会の開催支援等を推進する。

また、新入学生への入会勧誘を促進する他、会員管理システム並びにホームページの活用による会員情報の精度向上と本会活動のPR強化につとめていく。

公益事業については引き続きくらしかをはじめとする科学技術振興事業と大学支援事業を着実に実施する。

支出全体としては前年度予算並みの2億600万円を計上し、2020年度収支は3600万円の黒字を見込む。

II. 事業活動について

1. 科学技術及び工業の振興並びにこれらに関する教育・啓発及び人材の育成に資する事業（公益事業）

(1) 各種セミナー、講演会の開催

- ・例年、年度始めに開催している関西蔵前講演会については、第33回を下記のとおり開催する。

日 時 令和2(2020)年4月18日(土) →新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月18日の講演会は中止し、後日の延期開催を協議する。

会 場 中央電気倶楽部(大阪市)

テーマ 「地球環境、気候変動を次世代のために考えよう！」

講 演 1 竹内敬三 E&Eリサーチ(株)代表取締役社長、蔵前工業会理事(S47 化工)

『気候変動に関する情報を多方面から見て考えよう』

2 土肥義治 東京工業大学名誉教授、理化学研究所名誉研究員(S44 応化 46 修)

『地球環境との調和をめざすバイオプラスチック：研究開発のこれまで、そしてこれから』

また、科学技術部会、支部の企画で年2回開催している蔵前科学技術セミナーについては、第43回を

科学技術部会の企画により『宇宙開発を支える技術』をテーマに、10月3日に東京にて、第44回を埼玉県支部の企画（詳細は今後検討）により令和2年11月以降に開催の予定である。

(2) 蔵前ベンチャー相談室によるベンチャー・中小企業等の支援活動

- ・前年度同様、登録企業の支援を継続する。
- ・ぐるなび滝会長の支援により、特別プロジェクトとして令和元年度は4社のベンチャー企業を支援した。令和2年度は2社を入れ替えて4社の支援活動を推進する。
- ・東工大（研究・産学連携本部）とのベンチャー育成に関する協働事業として東工大発ベンチャーの支援に取り組んでいく。
- ・組織連携先（㈱ケイエスピー、首都圏産業活性化協会、横浜ベンチャープラザ等）と良く連携を図りベンチャー・中小企業の支援を行う。
- ・企業支援活動に役立つ活動として、IT、ものづくり、バイオマスの専門グループ活動の実施、セミナーを開催して活発に事業を展開する。
- ・今後の継続的な活動を支えるための自主財源確保の一環として、会員企業からの寄付金募集、㈱つくば研究支援センター等からの業務委託契約による活動を進める。

(3) 蔵前理科教室ふしぎ不思議(略称くらりか)

- ・前年度同様、本会会員ボランティアによる小学校、児童館等での小中学生対象の理科教室（くらりか）を全国各地での関心の高まりに応え展開を図っていく。あわせて科学技術館での特別教室の開催等も継続する。また、好評を博しているホームカミングデーでの教室を6年連続で、すずかけ祭での教室を7年連続で計画している。これらの増加する需要への対応と質の高い教室維持のため、更にメンバーの増強、若返りを図っていく。

(4) 蔵前技術士会による諸活動

- ・前年度と同様、定例の講演会等を充実させて活性化をはかる他、工場見学会、蔵前技術士講座の開催、技術相談ネット（PLATT）、学生への技術士制度の紹介等、多角的な活動を展開していく。また、本年度も、東京開催の蔵前科学技術セミナーの企画・運営の中核を担う。新幹事への役割移譲等、組織力強化も継続する。

2. 東京工業大学および同学学生の活動等に対する支援事業(公益事業)

(1) 東工大基金への支援

- ・開催を促進している周年全学同期会等の機会を活用して東工大基金機構への募金を継続的に推進し、大学の運営基盤を強化するとともに募金を通じて大学の運営や学生の活動の支援を行う。また、支部総会の際に東工大サポーターズ会員入会促進を側面から支援する。

(2) 蔵前立志セミナー（大岡山）、蔵前ゼミ（すずかけ台）

- ・東京支部は、平成29（2017）年度より東工大リベラルアーツ研究教育院との共催で実施している蔵前立志セミナーを引き続き大岡山キャンパスで4回開催する。一方、神奈川県支部は、すずかけ台キャンパスで蔵前ゼミを引き続き6回開催する。

→新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催回数は変動の見込み

(3) 新入生歓迎会の開催（大岡山、すずかけ台）

- ・会員部会、学生分科会により大岡山キャンパスで令和2年4月14日に、会員部会、神奈川県支部、学生分科会によりすずかけ台キャンパスで4月24日に新入生歓迎会を開催する。同窓会イベント参加への第一歩として位置づけ、その後の蔵前立志セミナー、蔵前ゼミ、学生分科会等各種活動への参加がスムーズとなるよう学生分科会が工夫を凝らした企画を実施する。

→新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期

(4) 卒業祝賀会（蔵前工業会正会員歓迎会）

- ・会員部会、学生分科会により、修士2年生を対象として修了を祝い・激励し、同窓会への参加を呼びかけるイベントを12月若しくは3月に開催する。

(5) 東京工業大学が広く社会に向けて行なう社会教育行事への支援

- ・全国の高校生を対象にしたスーパーコンピューティングコンテストや地方高校での出張講演会を支援する他、社会人教育院講演会や、東工大各院等主催のシンポジウム等各種行事の共催、後援を行う。

(6) 東京工業大学・一橋大学合同移動講座

- ・平成21（2009）年度から11回を数えて定着してきた如水会との連携による「東京工業大学・一橋大学合同移動講座」については、第12回を本会静岡県支部、如水会（一橋大同窓会）と協力して12月6日に静岡市において開催する。

(7) 東工大学修コンシェルジュの新入生支援

- ・平成28（2016）年度の東工大教育改革の一環としてスタートした東工大学修コンシェルジュ（新入生が学修をスムーズにスタートさせ、自主的に学修に取り組むように促す大学の学生支援事業）に、引き続き本会会員6名が東工大学修コンシェルジュとして協力する。入学直後の4月に4日間に亘り新入生全員対象の新入生ガイダンスを実施する。また個別の相談にも対応する。

→新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで実施

(8) 海外留学生への支援

- ・今年度も昨年同様東工大留学生会（TISA）の活動支援を中心に大学が計画する留学生支援の諸活動にも積極的に参加・協力を行う。なお、日本人学生と留学生の交流拠点として年度内にオープンする滝プラザでの活動に対して協力・支援していく。

(9) その他

- ・全卒業生への学位記証書入れの贈呈をはじめ、学生サークル等に対する各種支援並びにホームカミングデー、女子高校生の東工大への進学相談及び進学促進等を継続して実施する。

3. 会員の親睦を厚くし、相互啓発に資する事業(共益事業)

(1) 蔵前工業会誌の発行

- ・「蔵前ジャーナル」を年6回、毎号約25,000部発行する。毎号掲載する「今、活躍中の同窓生」、「講演録」、「蔵前人のキャンパスライフ」、「研究室訪問」、「学生リポーターの先輩訪問」、「東工大便り」等の記事に加え「東工大・一橋大合同移動講座」、「座談会」など本会および関連団体により随時開催される行事の開催案内と報告記事を適宜掲載する。

(2) ITを駆使した情報発信

- ・会員情報の多面的な活用を目指し会員管理システムの整備を図っていくとともに情報精度向上のための方策を講じていく。
- ・蔵前工業会および学科別同窓会、周年同期会等からの情報発信拡充のためウェブやメールマガジン等の一層の活用を図っていく。

(3) 支部活動等の活性化

- ・支部総会等への理事、監事の派遣、学長をはじめとする大学関係者の出席連携、支部間の交流促進を継続的に実施する。また支部主催の講演会、見学会に対し補助金を継続する。11月13日には支部長会を開催し、支部長相互、支部長と役員、支部長と母校間の情報交換と交流をはかる。

(4) 多様かつ特色ある組織の活動

- ・女性会員による「くれない工業会」、若手・中堅会員による「青燕会（東京若手の会）」、「燕友会（関西若手の会）」、「燕翔会（神奈川県支部若手の会）」学生会員による「学生分科会」、「東工大テクノガールズ」等、それぞれの特色を活かして活動を充実させ、同窓会参加者のすそ野を拡大させていく。

(5) 蔵前経営者懇話会

- ・経営者並びに経営を志す有志により、令和2（2020）年度も下記の計画をしているが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、状況によっては、中止・延期等見直しを図っていく。
- ・講演会・懇親会は従来通り4回実施、8月には暑気払い、12月には忘年会実施、ゴルフ懇親会は4月と9月に開催を計画していたが、4月については新型コロナウイルス感染拡大防止の為に中止とした。1月には、新春講演会を蔵前工業会と東京支部の共催で開催する。10年目となる若手社会人、学生を塾生とする「蔵前懇話塾」も継続して行う。

(6) 学生の就職活動支援

- ・大学との共催で、4月に「K-meetⅡ（就職情報交換の集いⅡ）」を、12月に一昨年度から開始した「Dr's K-meet」をそれぞれ大岡山キャンパスで開催する。また、1月に「仕事とキャリアセミナー」を大岡山キャンパス並びにすずかけ台キャンパスで開催する。さらに3月に就職情報交換の集い（K-meet）を開催する。その他、くらまえアドバイザーが就活学生の個別就職相談にのり、きめ細かい支援を行う。

→ K-meetⅡは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、学生へのWebによる支援を実施

(7) 若年会員増強対策の推進

- ・同窓会への若年会員の積極的参加を促すため、大学と連携し、修士課程卒業前に幹事を選任して準備会を開催し同期生ネットワークを構築する。それを学部卒業5周年全学同期会（初の開催）につなげていく。→新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期

(8) 周年行事の開催支援他

- ・卒業5、20、30、40、50、60周年等の全学同期会開催を支援する。卒業50周年会員への記念品（陶板）贈呈を継続する。

(9) 東工大蔵前会館の有効活用

- 大学との共同事業として建設された活動拠点であり、事務局を置いている東工大蔵前会館を①効率的で会員に開かれた明るい事務局を構築②東京工業大学との連携事業をいっそう推進し、学生、教職員との交流を促進③首都圏各支部並びに各関係団体との連携に重点を置き、いっそう有効活用していく。

以上